

〔夫木和歌抄夏〕家集時鳥

ほと、ぎすなくね雲井にとゝろきてはしのはやしやうづもれぬらん

古寺螢

俊頼朝臣

今ぞしる雲の林のほし。は。ら。や。そ。ら。に。み。だ。る。、。ほ。た。る。な。り。け。り

〔永久四年百首雜〕星

常陸

我ひとり鎌倉山を越ゆけば星。月。夜。こ。そ。う。れ。し。か。り。け。れ

〔賴政集雜〕昇殿の後四位して侍りし時亮君顯昭よろこびいひつかはすとて、

ことわりや雲るにのぼる君なれば星の位もまさるなりけり

〔四方の硯月〕星象を見ることは農民よりくはしきはなし、大和の國は水のとほしき處なれば四

月頃より夏中農民夜もすがらいねずして星象をはかり見て種おろし、あるひは夜陰の露おき

たるに苗の玄めりをえり、米穀の實のると、みのらざるとを、あらかじめはかりえり、事なり、その

星にからすきぼし、ひしぼし、すばるぼし、くどほしなど、ようの名をつけて、某の星は何時に何の

位にあらはれ、何時に何の方にかくるなどいひて、その目つもりにてはかること露たがはず、

〔萬寶鄙事記占六天氣〕星 雨後に天くもりても、只一星見ゆれば、その夜必ず晴て明日も天氣よし、

又星多きはいふにをよばず、星の光きら／＼として定まらざるは風又は雨

天河

〔倭名類聚抄景一宿〕天河 兼名苑云、一名天漢、今按又名河漢、一名銀河也、和名阿萬乃加八

〔箋注倭名類聚抄景一宿〕按、廣雅、天河謂之天漢、兼名苑蓋本此、夏小正傳云、漢也、者天漢也、毛詩小雅

大東傳云、漢天河也、那波本漢河作河漢、按、白氏六帖有銀河河漢、無漢河、孔氏後六帖、亦引韓詩、浩

汗若河漢、杜甫詩、驚風翻河漢、則作河漢爲是、